

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2008(平成20)年10月15日 第424号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部

発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402

東京都新宿区市谷砂土原町1の2

保健会館 電話 03(3269)1131

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)



● 今月の主な紙面 ●

- (1面) ● 特定健診・特定保健指導の現状と課題
第49回日本人間ドック学会シンポジウムから
● 第26回全国情報統計研修会が開催
- (2・3面(見開き))
● 連載 科学的根拠に基づいた
日本人に推奨できるがん予防法 第6回
● 話題「子どもの事故による傷害の現状と予防戦略」
● 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ
保健指導シリーズ 第6回: 医師/保健師/
管理栄養士/健康運動指導士のコラム
- (4面) ● がん啓発サポートキャンペーン
リレー・フォー・ライフ・ジャパン2008 新横浜
● 第35回日本マス・スクリーニング学会が開催
● 新刊紹介/『よくわかる子どもの肥満』
● 産業保健フォーラムが開催

特定健診・特定保健指導の 現状と課題

第49回 日本人間ドック学会
シンポジウムから

糖尿病や脳卒中、心筋梗塞などの生活習慣病予防と医療費の増大を抑制することを目的に、今年4月から、医療保険者による「特定健診・特定保健指導」が実施されているが、診断基準や実施方法などについて問題点も指摘されており、受診者とのトラブルも少なくない。こうした中、先ごろ徳島市で開催された第49回日本人間ドック学会では、メタボリックシンドローム(メタボ)や特定保健指導などに関する多数の講演やシンポジウムが企画された。今回は「特定健診・特定保健指導の現状と今後の課題」と題したシンポジウムの概要を紹介する。

厚生労働省の「2006年国民健康・栄養調査」によると、糖尿病が強く疑われる人とその予備群を合わせると1870万人で、2002年の調査より250万人増加している。また、40歳から74歳までのメタボの「該当者」とその予備群は1940万人と推計され、男性の2人に1人、女性の5人に1人が該当することになる。

メタボに着目した健康診断と保健指導により生活習慣病を予防し、こうした状況の改善を目的に、今年4月から特定健診・特定保健指導が、健康保険組合などの医療保険者により実施されている。シンポジウム(司会 伊藤千賀子ランドタワーメディカルコート所長)では、導入後約半年間の経験を踏まえ

て、4人の専門家が、特定健診・特定保健指導の現状と課題について講演・討論した(写真)。

最初に行政の立場から、厚生労働省の田中弘之栄養・食育指導官が、特定健診・特定保健指導が導入された背景と標準的な健診・保健指導プログラムについて解説し、「特定保健指導については一定の効果が認められたという報告が寄せられているが、その一方で、いかにして実施率を上げるかなど今後の課題も見えてきた。その意味で情報提供」は、特定保健指導の参加者を増やし、健康状態の悪化やリハウンドを防止するなど、被保険者の健康に対する関心度を上げる役割を有しており、今後ますます重要になると思われる」と述べた。

次に医師の立場から、静岡市医師会健診センターの田内一民センター長が講演し、メタボの判定と保健指導対象者の階層化の判定において血糖値の判定基準が異なることから、健診現場で混乱が生じていると指摘した上で、「特定健診・特定保健指導の最大の功績は、健診データの統一が図られることだ。標準化されたデータが集積されれば、新しいエビデンスが生まれ、性差、年齢差などによる判定基準も適宜見直すことができる。そのためには、データの質を保証する内部および外部精度管理の確実な実施が重要だ」と強調した。

日本赤十字社熊本健康管理センターの戸渡洋子係長は、保健師の立場から施設での取り組みを紹介し、「市町村における受診率は想定した以上に低く、特定保健指導の実施率も伸び悩んでいるが、これまで実施したメタボ改善プログラムに関しては、一定の成果を得ることができた」として、独自に開発した行動計画表や自己効力感の向上を伴

行政、医師、保健師、産業医の 立場から問題点と対策を討論

う健康行動学的アプローチによる体重減少効果について説明した。

大阪ガス健康開発センターの岡田邦夫所長は産業医の立場から、自施設の研究データを基に、運動習慣が高血圧や糖尿病などの発生を抑え、死亡率を減少させる効果を解説し、次のように述べた。

「運動には、健康増進や生活習慣病予防などの効果があるが、一方で突然死や傷害の発生というリスクも内在している。指導対象者のリスク状況を把握して層別化を行い、それぞれに適した運動指導を行うなど、傷害や事故の予防対策を徹底する必要がある。」

また、運動に対して無関心な人に、いきなり運動指導を行っても効果が低い。このような場合は、まず運動に関心を持ってもらうための情報提供だけを行い、時間をかけて将来への波及効果を期待しながら啓発を行うのが良い。

その後の質疑応答では、特定健診・特定保健指導を定着させるための対策について、熱心な議論が行われた。



第26回全国情報統計研修会が開催

本会を始めとする予防医学事業中央会傘下の全国支部で情報処理や統計実務を担当するスタッフによる、第26回全国情報統計研修会が、去る8月28日、29日の2日間にわたって滋賀県草津市で開催され、約80人が参加した。

研修会初日のグループディスカッションでは、①情報処理部門②職域健診成績処理担当者③施設(人間ドックなど)

健診成績処理担当者④地域健診成績処理担当者に分かれて、活発な意見交換が行われた。また、2日目に行われた全体討議「特定健診・特定保健指導データの取り扱いについて」では、3支部(群馬県・神奈川県・愛媛県)が取り組みの概要を報告した。

この他、研修会では、滋賀医科大学の上島嗣教授に

よる講演
「特定健
診・特定
保健指導
の意義と

今後の展開」が行われた。上島教授は、日本人の大規模長期追跡調査「JIPPON DATA」の概要を紹介しながら、生活習慣病対策の重要性を解説し、「メタボ」という言葉の流行に乗って予防意識が普及したことを評価した上で、「今後の展開として、禁煙の意義、高血圧予防などの意識の普及が求められる」とした。

個人情報取扱について

日ごろより、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。そのうえで今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は(予約制)
電話 東京(03)-3269-1141
健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2
(財)東京都予防医学協会

◆◆ コンサルテーションのごあんない ◆◆

- | | |
|----------------------------|-------------|
| 11月 5日 岡 惺治 (健康管理コンサルタント) | 12月 3日 岡 惺治 |
| 12日 三輪祐一 (東京都予防医学協会総合健診部長) | 10日 三輪祐一 |
| 19日 岡 惺治 | 17日 岡 惺治 |
| 26日 第222回ヘルスケア研修会につき休み | 24日 三輪祐一 |

患者、家族、支援者ら 24時間「命のリレー」

がん啓発サポートキャンペーン リレー・フォー・ライフ・ジャパン2008 新横浜

24時間のリレーウォークを通じて、地域社会全体でがんと闘った
めの連帯感を育む、市民主導の対がん運動「リレー・フォー・ライ
フ(命のリレー)」が、去る9月14日から15日の2日間にあつて、
横浜・日産スタジアム小机フィールドで開催された。リレーウォー
クには約2400人が参加し、がん征圧への思いを新たにしていた。

リレー・フォー・ライフ 国でスタートしたリレー・
は、がん患者やがんを克服し フォー・ライフは、現在全
た人、家族、支援者らがチー 米5千力以上、世界でも20
ムを組み、24時間交代で歩き 数カ国に広がる運動となっ
続けながら、がんを恐れない ている。日本では、一昨年つ
社会を目指して行われるイベ くとば市で開かれたのを皮切り
ント。24時間という ント。24時間という
時間には、「がんは24 時間には、「がんは24
時間眠らない。がん 時間眠らない。がん
患者のがんとの闘い も24時間続いている」
というメッセージが といふメッセージが
込められている。 込められている。
1985年に米



手形とメッセージをつづったフラッグを手に「サイバースウオーク」(上) 子どもたちへの絵本の読み聞かせ(下左) チームフラッグを掲げながらリレーウォーク(中) がんと闘っている人、がんで亡くなった人への思いが込められた「ルミナリエ」のキャンドル(右)

第35回日本マス・スクリーニング学会
が、去る8月29日、30日の2日間にあつて、
島根大学が、去る8月29日、30日の2日間にあつて、
松江市で開かれた。学会では
「守りたい世界にひとつだけ
の生命(いのち)をテーマに
障害を予防するためのマス・
スクリーニングについて多数
の講演が行われた。
2つの招待講演では、21
世紀のヨーロッパの新生児
スクリーニングについて、ド
イツのハイデルベルク大学の
G.F.ホフマン教授が、韓国

第35回 日本マス・スクリーニング学会 が開催

の新生児スクリーニングの収
支バランスについて順天郷大
学のD.H.リー教授が、興味
深い講演を行った。
患者家族とそれを囲む
人々の連携についてのシンポ
ジウムでは、PKU親の会の
平田陽一氏やメチルマロン酸
血症の家族の柏木明子氏と共
に、検査の立場から札幌市衛
生研究所の福士勝氏が、フォ
ローアップについて東北大学
の松原洋一教授が、長期治療
を支援する立場から女子栄養
大学の和田操教授のグルー
プが、それぞれ連携の重要性
を指摘し、感銘を与えた。
広島大学の榎山英三教授
の神経芽腫スクリーニングの
再評価と今後の方向性の教育
講演では、スクリーニング休
止前後の死亡率の変化が示さ
れ、神経芽腫スクリーニング
の確立と治療ガイドライン策
定の必要性が報告された。

よくわかる
子どもの肥満
岡田知雄／編著



肥満の子
も、この30年
間で約3倍に増
え、今や学童期
の10人に1人が
肥満状態となっ
ている。
子どもの肥
満対策について
は、成長期の心
身に及ぼす影響を踏まえた適
切な指導が欠かせない。
本書は、子どもの肥満の
専門家21人が、最新の知見を
紹介しながら、小児肥満の判
定法や診療、日常の食事、運
動などの対応について、わか
りやすく解説したテキストで
ある。
最もページを費やしている
第1章「子どもの肥満の正
しい理解のために」では、肥
満の判定と評価、小児の肥満
生活習慣病・メタボリックシ
ンドローム、子どもの肥満が
なせ問題なのかなど、子ども
の肥満の理解に役立つ情報が
盛り込まれている。
続く第2章「子どもの肥満
の治療」では、小児肥満の診
断と治療、食事・運動療法の
進め方、行動療法の実際など
が具体的に解説されている。
その他、糖尿病や高脂血症、
高血圧など合併症の問題、予
防と早期発見の重要性、小児
肥満をめぐるトピックなども
取り上げられており、子ども
の肥満に取り組む際に、ぜひ
知っておきたい情報が網羅さ
れている。
子どもの肥
満に関わる医師
や看護師のみな
らず、学校関係
者にも一読をお
薦めしたい。
(永井書店、B
5判、5250
円)

子どもの肥満
も、この30年
間で約3倍に増
え、今や学童期
の10人に1人が
肥満状態となっ
ている。
子どもの肥
満対策について
は、成長期の心
身に及ぼす影響を踏まえた適
切な指導が欠かせない。
本書は、子どもの肥満の
専門家21人が、最新の知見を
紹介しながら、小児肥満の判
定法や診療、日常の食事、運
動などの対応について、わか
りやすく解説したテキストで
ある。
最もページを費やしている
第1章「子どもの肥満の正
しい理解のために」では、肥
満の判定と評価、小児の肥満
生活習慣病・メタボリックシ
ンドローム、子どもの肥満が
なせ問題なのかなど、子ども
の肥満の理解に役立つ情報が
盛り込まれている。
続く第2章「子どもの肥満
の治療」では、小児肥満の診
断と治療、食事・運動療法の
進め方、行動療法の実際など
が具体的に解説されている。
その他、糖尿病や高脂血症、
高血圧など合併症の問題、予
防と早期発見の重要性、小児
肥満をめぐるトピックなども
取り上げられており、子ども
の肥満に取り組む際に、ぜひ
知っておきたい情報が網羅さ
れている。
子どもの肥
満に関わる医師
や看護師のみな
らず、学校関係
者にも一読をお
薦めしたい。
(永井書店、B
5判、5250
円)

新横浜で開かれたリレー・
フォー・ライフは、14日午後
1時にスタート。がんのサバ
イバー(がん患者や、がんを
克服した人)たちによる「サ
イバースウオーク」で幕を
開けた。
サイバーターたちは、がんと
闘う人たちの勇気を称える声
を響かせる。

に、昨年は神
戸と東京で
今年には北
道から九州
まで全国6
カ所で開催
される。
に、昨年は神
戸と東京で
今年には北
道から九州
まで全国6
カ所で開催
される。

東京労働局と東京労働基準
協会連合会、東京産業保健推
進センターが主催する「産業
保健フォーラム IN TOKYO
2008」が去る9
月8日、東京・千代田区の九
段会館で開催された。
フォーラムでは、「過重労働
による健康障害防止と快適
職場環境の形成をめざして」
をテーマに、講演やシンポジ
ウムが行われた他、THP体
験コーナーや歯磨き体験コー
ナーが企画された。

第254回 関東産業
健康管理研究会特別大会
職域における
特定保健指導を考える
11月15日(土)午後1時~4時
東京 飯田橋ベルサール飯田橋

第222回ヘルスケア研修会
保健指導シリーズ7
腎臓を守るための
保健指導
11月26日(水)午後2時~4時
東京 永田町「星陵会館」

産業保健
フォーラム
が開催

お知らせ
第222回ヘルスケア研修会
保健指導シリーズ7
腎臓を守るための
保健指導
11月26日(水)午後2時~4時
東京 永田町「星陵会館」

第222回ヘルスケア研修会
保健指導シリーズ7
腎臓を守るための
保健指導
11月26日(水)午後2時~4時
東京 永田町「星陵会館」

血圧脈波検査と心電図検査がひとつになって誕生

新登場
血圧脈波検査装置
VaSera VS-1500E
医療機器承認番号：21800BZX10162000

血管の硬さを示すCAVI、血管の詰まりを示すABI、2つの指標からなる血圧脈波検査と、国産心電計の
パイオニアであるフクダ電子の心電図検査を融合させたバセラVS-1500Eの誕生です。生活習慣病・
メタボリックシンドロームの病態把握と、治療の動機づけにお役立て頂けます。血管性疾患予防の時代
ともいわれる21世紀に対応した、先進の一台です。

113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) <http://www.fukuda.co.jp/>
お客様窓口… ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月~金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00~18:00
● 医用電子機器の総合メーカー **フクダ電子株式会社**